

8/5付で津田沼「本部」派2名が脱退！

日刊 動労千葉

81.8.11
No. 818

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇三三（22）七二〇七

出獄同志を迎えて津田沼集会在大成功。

八月五日、動労「本部」と権力一体となった動労千葉破壊弾圧攻撃をもの見事に打ち破り、完全黙秘非転向で闘い抜いた片岡支部長ら六名の仲間復帰を確認する支部集会在津田沼電車区講習室で開催された。会場を埋めつくす七〇名の参加のもと大成功をかちとり、デッチ上げ起訴弾劾・動労「本部」革マル一掃・第二マル生粉砕へ全組合員がうって一丸となって決起する戦闘宣言を發した。同時にこの日、「本部」革マル反動分子によって「動労組合員」としてガンバッテいる若き仲間等とほめそやされてきた仙台・盛岡からの帰任者、山田（亘）・坂間の両君は、「動労『本部』の告訴路線は労働組合として誤りである」として動労から脱退した。全組合員のみなさん。六名の完黙獄中闘争と高揚する反弾圧闘争は、ついに「本部」派一掃の突破口を築いたのだ。さらに全組合員は決起せよ。



6名の完黙・非転向—1,300組合員の総決起—反対同盟・支援団の厚い支援の輪で、わんわんは完全に勝利した。決意表明する（左列）[田内藤君は佐倉勤務]小倉、吉岡、深見、重見、片岡の6同志。 <8月5日、津田沼電車区講習室にて>

十名を権力に売り渡した
「本部」派を職場から一掃せよ

集会是十二時、「支部は、かつてない試練に打ちきつた。六名の仲間は完黙を貫き、ここに奪還された。労働組合の名を借りて権力に労働者を売り渡した動労『本部』派を職場から一掃せよ」との力強い司会者の挨拶によって開始された。九名の執行部中、支部長以下五名の執行部を権力によって奪いさられるという未曾有の弾圧下、直ちに第二執行部を確立し、自らも告訴—任意出頭攻撃をうけながら支部長代行として最先頭にたつて闘い抜いてきた山下副支部長は、

「今回の『本部』革マルの労働組合にあるまじきタレコミ告訴とそれをうけた権力の弾圧攻撃こそ、八〇年代労働運動の戦闘的再生と三里塚労働連帯を闘い前進するわが動労千葉破壊を企図した攻撃であった。われわれはこの敵の狙いを粉碎し、

六名の仲間の最前線にたつた闘いをもって勝利した。勝利の核心は、動労千葉の路線的正義性であり、支部結成以来の総力をあげた闘いの勝利である。さらに三名へのデッチ上げ起訴を粉碎すべく公判闘争を全力で取り組もう。」と訴えた。布施本部副委員長は、
「動労『本部』と権力が一体となった前代未聞の動労千葉破壊攻撃に対し、津田沼支部は先頭にたつて動労千葉の屋台骨を支え抜き、敵の願望をうち破りより強化された組織をつくりだすことに成功した。今回の事態の本質は、『本部』革マル反動分子が路線的破産を乗りきらんと告訴路線へと転落し、労組の仮面をかぶった権力の先兵の本性を明らかにした。今こそ全職場から動労大改革へと総決起しよう。動労『本部』の『職場規律の厳正』をテコとした当局の第二マル生攻撃を粉碎せよ。」と基調報告を提起した。

六名の仲間元気に戦列復帰を宣言

全参加者の圧倒的拍手で迎えられた六名の仲間は、「本部」革マル反動分子への怒りも新たに戦列復帰の宣言を次の通り行った。

「私達は、獄内外の闘いに、一心同体となつてから抜いた。獄中・完黙闘争を勝利的につらぬいた力は、第一に動労千葉千三百鉄の団結を信頼したこと。第二に、動労千葉の路線的正義性を確信したこと。第三に、動労『本部』革マル反動分子を絶対に労働者として許せない。この三点にあったからだ。そしてなによりもこの闘いに勝利しなければ動労千葉の未来はないと考えたからだ。われわれは、初めての弾圧経験であったが勝利した。この勝利を突破口に動労大改革へ前進する。」

全組合員のみなさん。
津田沼支部はこうして六名の仲間を守り切り、「本部」革マル反動分子と権力に反撃を開始した。全支部は津田沼支部の闘いを教訓化し、動労「本部」派一掃・動労大改革へむけて総決起しよう。